

「地域と学校の連携・協働」推進実践交流会

研修1 行政説明

地域と学校の連携・協働の 意義について

地域と学校の連携・協働の意義についてご説明させていただきます。
どうぞよろしくお願いいたします。

説明の流れ(10分)

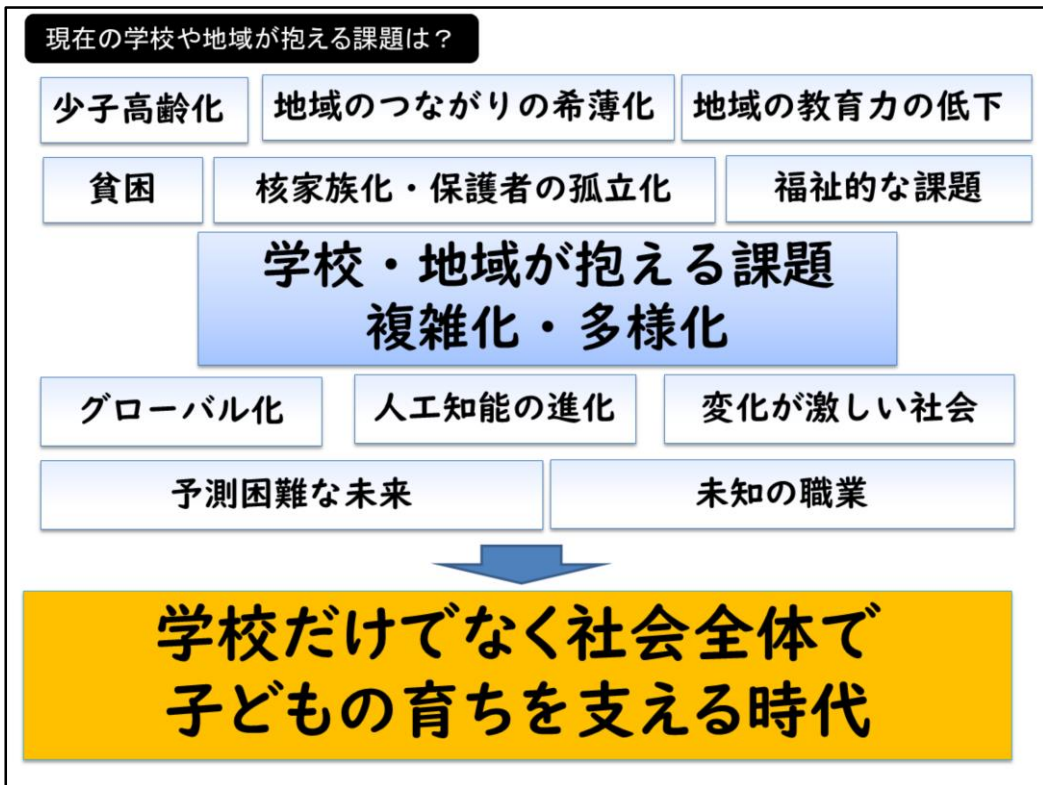
(1)現在の地域や学校の状況

(2)コミュニティ・スクールとは？ 地域学校協働活動とは？

(3)天草管内の活動

(4)〇〇にとってプラスとなる「地域と学校の連携」

説明は、ごらんのような流れで行います。



現在の学校や地域は、全国的にみて、このような課題があるといわれています。天草でもあてはまるものがあるのではないのでしょうか。そして、変化が激しく、予測困難な未来が来ることが予想されています。このような社会だからこそ、学校だけではなく、改めて、社会全体で子どもの育ちを支えていこうという気運が高まっています。

社会に開かれた教育課程が必要である

「社会に開かれた教育課程」

社会のつながりの中で学ぶことで
子供たちは、自分の力で人生や社会をよりよくできるという
実感をもつことができます。

このことは、変化の激しい社会において
子供たちが困難を乗り越え、
未来に向けて進む希望や力になります。

そのため、これからの学校には
社会と連携・協働した教育活動を充実させることが
ますます求められます。

〈令和2年2月発行 教育委員会月報 文部科学省教育課程課作成資料より〉



「コミュニティ・スクール」と
「地域学校協働活動」の一体的な推進

子どもの育ちを、学校と地域でともに支えていくために、国では、
「社会に開かれた教育課程」の実現を重視しています。

社会とのつながりの中で学習していくことで、子どもたちは、自
分の力で人生や社会をよりよくでき、子どもたちが困難を乗り越
え、未来に向けて進む希望や力になっていく。そのため、これ
からの学校には、社会と連携・協働した教育活動を充実させる
ことがますます求められるとしています。そのために重要になる
のが、次に説明しますコミュニティ・スクール(学校運営協議会
制度)と地域学校協働活動の一体的な推進です。



「コミュニティ・スクール」って？

「学校運営協議会制度」を導入した学校のこと。学校と地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる「地域とともにある学校づくり」への転換を図るための有効な仕組み。地域住民が学校運営に責任と権限を持って参画し、合議体として協議する。

学校運営協議会委員（地域住民、保護者、地域学校協働活動推進員など）

地方教育行政の組織及び運営に関する法律47条の5



コミュニティ・スクールとは、学校運営協議会制度を導入した学校のことです。天草管内の小中学校はすべてコミュニティスクールとなっています。学校運営協議会には、学校運営の基本方針を承認する、学校運営に関する意見を述べる等の役割があり、「学校の魅力や課題」「学校運営のビジョン」「めざす子ども像」「育てたい資質・能力」、「地域の課題」等を共有して、学校運営に地域の声を積極的に生かし、地域と一体となって特色ある学校づくりを進めていく“話し合いの場”として期待されています。



「地域学校協働活動」って？

地域の高齢者、成人、学生、保護者、PTA、NPO、民間企業、団体・機関等の幅広い地域住民の参画を得て、地域全体で子供たちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指して、**地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動**

地域が学校（子ども）を支援する

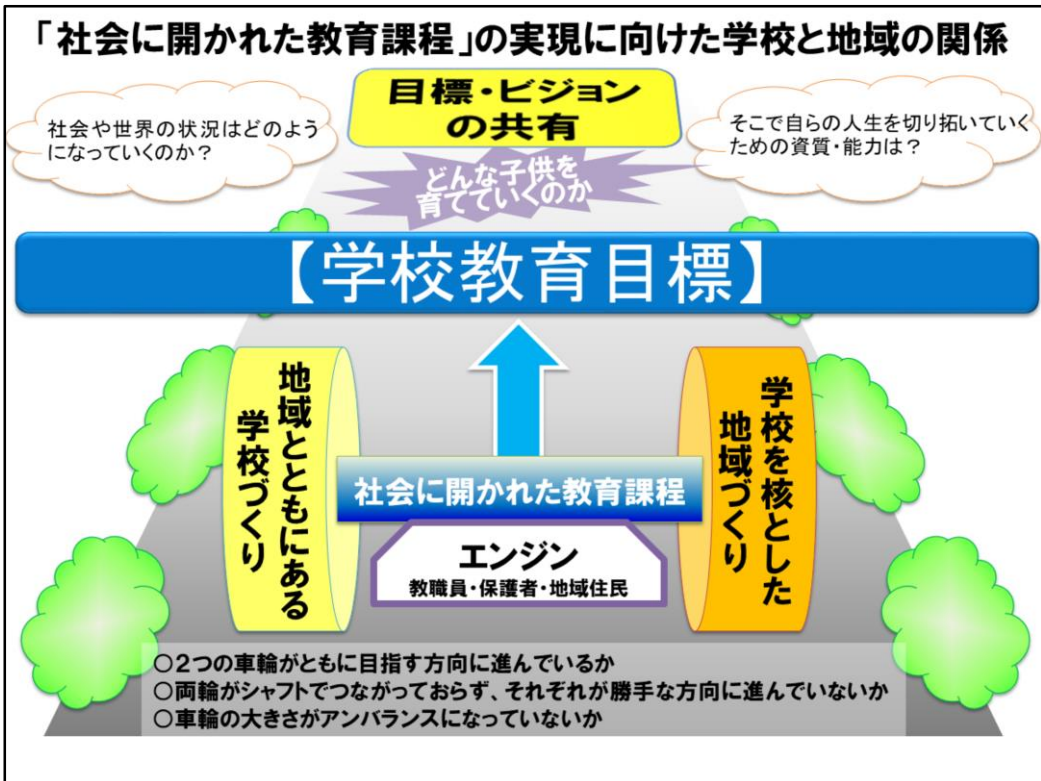
双
方
向

学校（子ども）が地域に参画する・貢献する

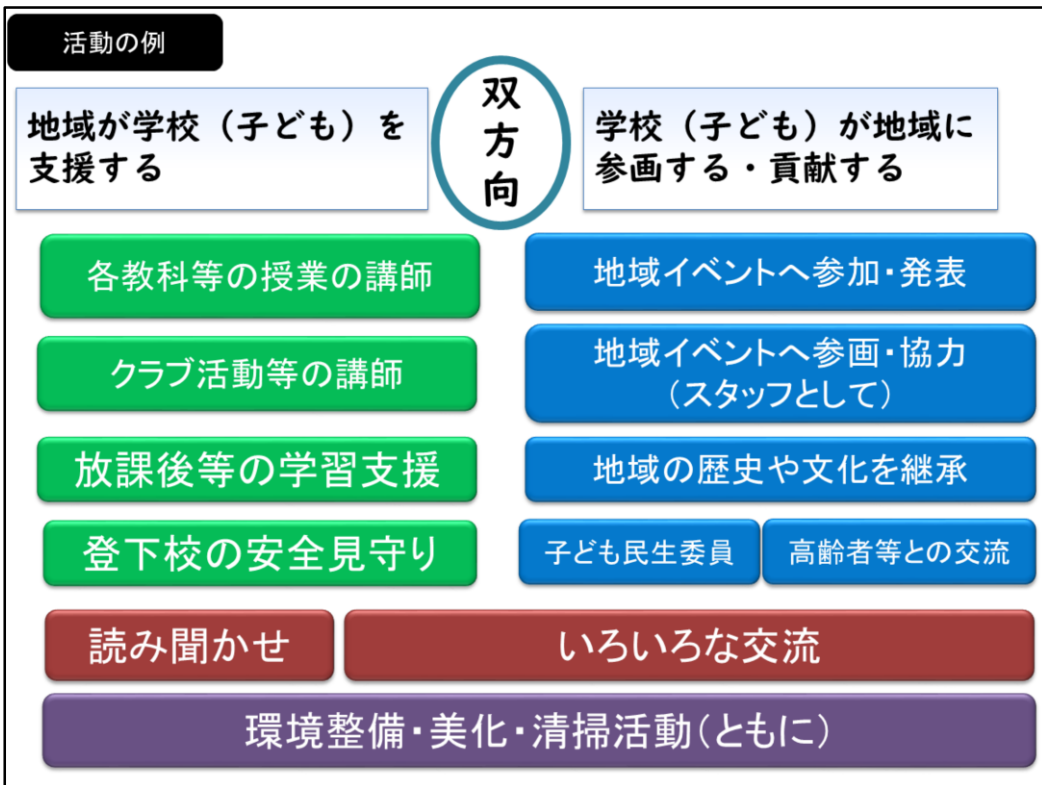
次に、地域学校協働活動は、「地域と」「学校が」「連携する」活動のことです。地域のいろいろな人が、みんなで子どもたちの学びや成長を支えてくださっている活動全体をさす言葉です。タイプは様々ですが、「地域が学校・子どもたちを支援する活動」と、「学校・子どもたちが地域の課題に貢献したり、地域の行事等に参加・参画したりする活動」との、「双方向」での活動となるようにすることがポイントです。天草管内の各小中学校には、これらの活動のコーディネーターとして、「地域学校協働活動推進員」のみなさんが配置されており、各学校と地域をつなぐ役割としてご活躍いただいています。



こちらが、コミュニティ・スクールと、地域学校協働活動を一体的にすすめていく全体像です。学校運営協議会で、子どもたちや地域の未来や目の前の様々な課題について共通認識を持つ熟議の場をもち、目標やビジョンを共有し、その内容を意識しながら、地域学校協働活動推進員のみなさんを中心としたコーディネートの下、多くの地域住民の参画による地域学校協働活動を展開します。学校と地域がそれぞれに持つ力を効果的に発揮し、持続可能な形で進めていきます。



これは、「学校と地域の関係」を図示したものです。地域の人々とともに、どんな子どもを育てていくか、目標やビジョンを共有します。そして、「地域とともにある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」の2つの車輪を、教職員や保護者、地域の方がエンジンとなって回し、進んでいくというイメージです。



天草管内には、皆様に支えていただき、ごらんのような素晴らしい活動がおこなわれています。

子どもにとってのプラス

- 楽しくて、より分かりやすい授業が受けられる。
- ふるさとのよさ（人や文化、歴史、産業等）を知ることができる。
- 地域の人々に愛され、支えられているという気持ちを感じる。
- 地域に貢献し、地域を大切にする気持ちが強くなる。

このような活動がだれにとってプラスになるのか、という点で整理をしてみたいと思います。まず、「子どもにとってのプラス」として、このようなものが考えられます。より分かりやすく楽しい授業、ふるさとのよさを知る、人々に愛され、支えられているという気持ち、地域を大切にする気持ちも高まってくるでしょう。

地域（人・自然・歴史・よさ）との
かかわり・出会い・発見・ふれあい



すごい！

ありがとう！

来てよかった！



大事にしたいな！

一緒にできてうれしい！

よくがんばってるね！

ほめられてうれしい！

知らなかった！

またお願いね！

知ってもらえてよかった！

わたしもがんばろう！

こんな大人がいるんだ！

助かったよ！



子どもたちの自己有用感・自己肯定感・自信

ふるさとを愛する気持ち

学習や生活への意欲

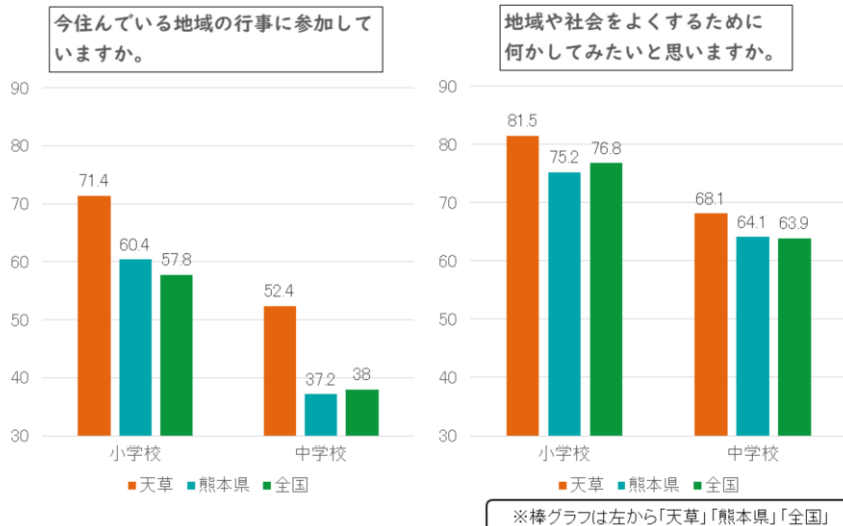
そのようなかかわりの中で、子どもたちの自己有用感や自信にもつながっていきます。

学校にとってのプラス

- 学校の様々な課題が解決される。
(安全な登下校、環境整備、各行事の手伝い)
- 地域のよさを生かした学習や体験で、特色ある教育ができ、子どもの心の成長や学力向上につながる。
(見学、ゲストティーチャー)
- 教職員の働き方改革につながる。
- 学校への地域住民の理解が高まる。

学校にとってのプラスとしては、ご覧のようなものが考えられます。学校のいろいろな課題の解決、学習や体験活動の充実と学力向上、働き方改革、地域の学校への理解などにも大きく影響します。

<R5 全国学力学習状況調査>



○小・中学校ともに、県や全国よりも高かった。

○この2つの質問に好意的な回答をしている児童生徒は各教科の正答率も高い傾向がみられた。

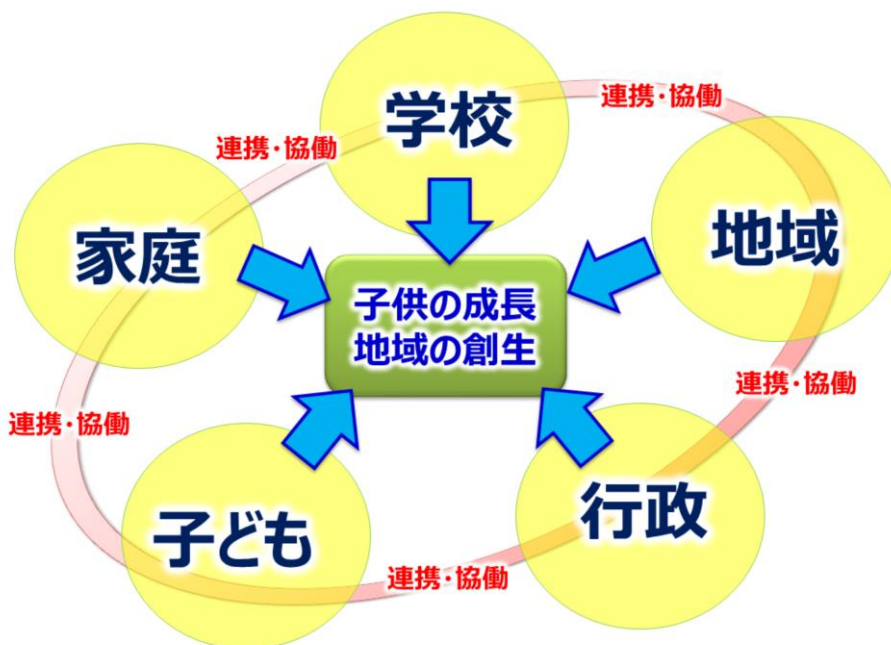
こちらは、令和6年度 全国学力学習状況調査の児童生徒質問紙調査の結果の一部です。「地域の行事に参加しているか、地域や社会をよくするために何かしてみたいか」の2つの質問で、天草は、県、全国をどれも上回っています。またこの質問に好意的に回答した児童生徒の、各教科の正答率も高い傾向が見られました。

地域にとってのプラス

- 子どもの成長にかかわる「喜び・生きがい・感動」が得られる。（地域の方の声から）
- 子どもの参加で、地域の行事が活性化する。
- 伝統文化や地域で続けてきた活動やイベントが未来につながっていく。
- 未来の「地域を支える人材」が育つ。
（地域の人づくり）

地域にとってのプラスとしては、ボランティアの皆様から、「子供の成長にかかわることが、喜びや生きがいにつながっている」という声をよくお聞きします。また、子どもたちが地域行事等に参加することで、地域行事が活性化したり、地域として守りたい活動が未来へつながっていくというよさもあります。そのような子どもたちが、「未来の地域を支える人材」として育っていきます。

五者連携で子どもたちが志を果たしていける未来を目指す



以上のように、コミュニティスクールと地域学校協働活動を一体的に推進していくことで、「子どもの成長や地域の創生」につながっていきます。今後も、各活動の価値、意義を感じていただきながら、持続可能な形で、無理なく推進していただければと思います。

推進のポイント

- ①学校運営協議会を計画的に開催しましょう。
⇒天草管内では年間3回ほど開催する学校が多いです。
- ②学校運営協議会で「熟議（じゅくぎ）」ができるようにしましょう。
（子ども・学校・地域の課題を共有する機会に）
⇒「グループ協議」「児童・生徒の代表参加」がある学校が増えています。
- ③地域学校協働活動推進員と学校、地域との打ち合わせの機会を確保しましょう。
（学期に1回程度は確保）
⇒すぐに連絡できる、定期的に連絡できるように各校で工夫されています。

（令和5年度 現在の管内状況と推進のポイント）

④ 「各教科や行事等の年間計画」に無理なく組み込みましょう。（次年度計画作成時に確認）
⇒ 学校と地域で年間の見通しをもち、次年度に向けて修正をしながら、互いに「無理のない」「持続可能な」計画を。

⑤ 地域貢献・地域参画も「持続可能」な形で進めていきましょう。

◆ 地域のボランティアや行事への参加

「地域のニーズ」→「推進員、学校」が内容を確認 →
→「意欲ある子ども」が参加 → 地域で受け入れて実施

◆ 地域の企画づくりの工夫

「企画の一部（チラシの挿絵、準備、片付けなど参加できる部分だけ）」や「実際の運営（企画、司会、運営スタッフ、一緒に活動など）」を、子どもたちと“ともに”できないか。

→子どもの参加で「地域が活性化」「（将来の）地域の人づくり」（伝統文化、特色あるイベント、地域住民のつながりを引き継ぐ）